

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：82662

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370198

研究課題名(和文)戦後伝統芸能興行の標準化済みデータベースの整備

研究課題名(英文)Creating a standardized data base of the postwar traditional entertainment performance

研究代表者

坂部 裕美子(SAKABE, YUMIKO)

公益財団法人統計情報研究開発センター・その他部局等・研究員

研究者番号：50435822

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本の伝統芸能について、分野を横断した趨勢比較の可能な公演データベースを作成した。全項目を網羅したデータベースにまでは到達できなかったが、歌舞伎、新派、新国劇、そして宝塚歌劇について、「公演数」が通覧できるまで整備した。これを時系列で比較してみると、歌舞伎がほぼ一定数で変わらないのに比べ、新派や新国劇は明らかに右肩下がり、逆に宝塚は公演数が上昇し続けているなど、それぞれの分野に長期的な盛衰があることが分かる。

研究成果の概要(英文)：A performance data base of a Japanese traditional entertainment which is possible to compare between the different field was made. This data base enables to compare the number of performances of the Kabuki with Shimpa and Shin-Kokugeki and Takarazuka. When it was judged by long time series, Kabuki doesn't change with a fixed number, even though Shimpa and Shin-Kokugeki decrease substantially and Takarazuka keeps increasing up to now. We couldn't complete a data base which nets all items, but our data base tells that there is a long-term tide in every field.

研究分野：伝統芸能データ分析

キーワード：伝統芸能 データベース 時系列データ 歌舞伎 宝塚

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の各種伝統芸能の興行データベースは、伝統芸能特有の事情(同一演目に別称が存在する等)から、集計用データとして取り扱う以前に整備が必要である。さらに現時点では紙ベースの記録のみでデジタルデータ化がほとんど済んでいない分野もある上に、データ整備がある程度進められている分野でも、それぞれが独自に制定した収録形式で作成されている場合があり、分野横断的な比較が難しい。

(2) 筆者はこれまでに、日本俳優協会制作の歌舞伎公演データベースの作成支援に携わったり、落語の寄席定席の出演者に関するデータ(画像データ)を自らの手でテキストデータ化し集計してきたりした経験があるので、伝統芸能興行データの大きな特徴は把握しており、興行記録を掲載している書誌の探索、データフォーマット作成など、本研究に関する基礎的作業は既にある程度の蓄積があった。

### 2. 研究の目的

(1) 各分野のデータベース整備の現状を確認した後、分野間比較を必要とする研究テーマを設定する。その分析を行う過程で、各分野の現時点での興行データベースの構成や、集計に際しての問題点などを把握する(属性項目の不足やフォーマットの不具合は、具体的な目的をもって実際にデータを集計しないと把握できないことが多い)。

(2) 芸能史、社会学など、バックボーンの異なる様々な研究者の誰もが利用しやすいように標準化等が施された「伝統芸能興行の標準データベース」の構成要素・形式を探求し、既存の興行データベース(歌舞伎など)をそれに合わせて整備する。

### 3. 研究の方法

(1) 伝統芸能の、分野を横断した比較の可能な公演データベースを作成する。集計・分析対象とする分野は一定以上の公演規模を持つジャンルに限定することとし(落語はこの観点により統合対象から外す)、従来からの歌舞伎に加え、新派、新国劇、そして、ここに含めることに異論はあるかも知れないが、信頼性の高い公演データが使用できることから宝塚歌劇とした。

(2) これらのうち、テキストデータ化された公演データベースの存在しないもの(新派、宝塚)は手入力にてデータ化を進めた。また、デジタルデータの貸与が受けられたもの(新国劇)は、集計用に整備した。

(3) 公演データ集計の意義・価値についての理解を広めるために、従来から行っている、歌舞伎や落語など既存の「単独の」公演データベースを用いた集計も継続して行う。さらに加えて、数値表や棒グラフ、折れ線グラフ

などよりも強烈なイメージを持って集計結果を伝えられるような表現方法についても研究する。

### 4. 研究成果

(1) 新派のデータ整備に関しては、全期間分が紙ベースの資料からのデータ起こしとなり作業ボリュームが大きすぎたため、「最初期の整備」とすることとして公演年月・劇場・演目(ただし1946年~1968年分のみ)に絞って長期データを作成した。データ化できた期間(新派が最も活発に活動していた時期にほぼ重なる)のみを対象とした演目別上演回数集計結果を見ると、歌舞伎でいう「忠臣蔵」並みに「婦系図」(おんなけいず)の回数が多い。「めの惣」「湯島境内」など全体から一場面だけを抜き出している上演も多く、そういった構造も歌舞伎に似ている。

(2) 新国劇のデータは、早稲田大学の児玉竜一教授が過去に演劇博物館での新国劇の展示に際して作成されたデータの貸与を受けることができたため、こちらを使用することとした。ただし、「山形屋」(国定忠治の一部)や「荒神山」(次郎長外伝の一部)といった演目データが存在しているので、歌舞伎・新派同様にデータを再整備した。演目別上演回数集計の結果では、「いわゆる国定忠治もの」(個別の演目名は異なる)が最多となった。

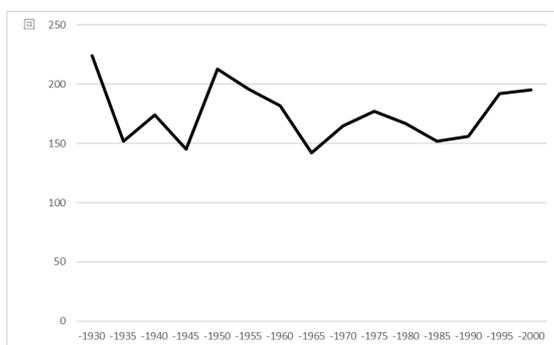
(3) 宝塚は、歌舞伎・新派・新国劇同様に演目別の上演回数集計も行った(「ベルサイユのばら」が最多となった)が、全劇団員の正確な在団期間を計算可能にするデータが公開されているので、長期的な在団(=活動)傾向についても集計してみた(伝統芸能の担い手には「生涯現役」という演者が多いため、宝塚はこの点のみが異色といえ、それ故に研究的関心も強かった)。その結果、1971~1980年の退団者の方が、2001~2010年の退団者よりも在団期間が短い側にピークがあることが分かった。歌劇団の雇用制度の変更が大きく影響していると思われるが、この間には日本でもミュージカルの公演数が激増しており、歌劇団での経験を「初期キャリア形成期」と見なして退団後も俳優として活動することが可能になってきた、という市場の変化も在団期間長期化の一因かも知れない。

(4) 落語に関しては、先述のとおり長期データは作成していないが、最新の出演データを使用して年間登場回数集計を行い、その結果を「ESTRELA」誌上で報告した。2000年代まで常に上位を占めていたベテラン勢が回数を減らし、2000年代以降に真打昇進した若手の回数が増加していた。筆者が、それまで誰も行っていなかった「年間登場回数集計」を始めたのは2004年からだが、それ以降今日までの間にまさに寄席の世界で「世代交代」が起きていたことが確認できた。

(5) 歌舞伎、新派、新国劇、そして宝塚について、昭和期~2000年までの公演数をグ

ラフで表すと、以下のようになる。

歌舞伎

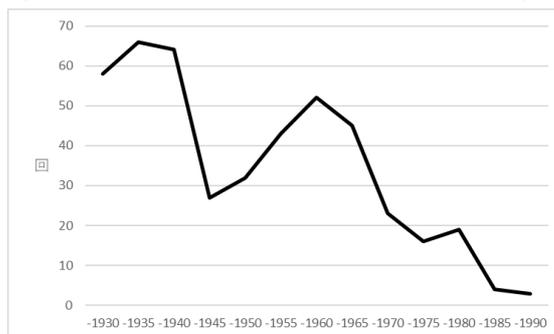


新派

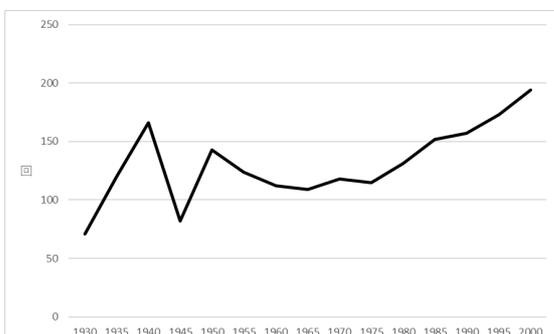


新国劇

(ただし縦軸の目盛りは他と大きく異なる)



宝塚



歌舞伎は、若干の凹凸はあるものの全期間を通じてほぼ不変なのに対し、新派や新国劇は明らかに減少傾向にあり、逆に宝塚は近年増加の一途をたどっている。

ここでいう「公演数」とは、「ほぼ同一の

演目を、一定期間継続して、同一の劇場で上演した」ものを1公演と見なし、その数を数えている(上記グラフは、さらにそれを5年分合算した数を図示している)。劇場の規模や公演期間の長短は考慮されていないので、数値的に正確な比較にはなっていないと考えられるが、それでも各分野の大まかな盛衰は把握できる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計15件)

坂部裕美子「伝統芸能興行データ集計・その一里塚」『ESTRELA』((公財)統計情報研究開発センター)における連載 査読無

第15回 落語家の寄席定席への出演回数 - 2016年データを用いて(2017年3月号、pp.26-29)

第14回 国立劇場作成データを用いた「忠臣蔵」上演回数集計(2017年1月号、pp.28-31)

第13回 新国劇の興行データ集計(2016年9月号、pp.30-33)

第12回 新派の上演演目集計(2016年7月号、pp.34-37)

第11回 宝塚の上演演目集計(2016年5月号、pp.33-35)

第10回 寄席定席プログラム概況を「分かりやすく」伝える(2016年3月号、pp.28-31)

第9回 「仮名手本忠臣蔵」の上演パターン(2016年1月号、pp.34-37)

第8回 東京の4演芸場の特徴を数値から見る(2015年11月号、pp.34-37)

第7回 歌舞伎三大狂言の上演傾向(2015年9月号、pp.30-33)

第6回 「芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査」より(2015年7月号、pp.28-31)

第5回 落語家の寄席定席への出演状況の「格差」(2015年5月号、pp.25-27)

第4回 落語家の寄席定席への出演回数(2015年3月号、pp.38-41)

第3回 歌舞伎の上演演目集計(2015年1月号、pp.30-33)

第2回 宝塚歌劇団員の在団期間の分析(2014年11月号、pp.24-27)

第1回 序説(2014年9月号、pp.30-33)

〔学会発表〕(計7件)

坂部裕美子「戦後歌舞伎の演目別上演頻度に関する考察」日本演劇学会、2014年6月14日、摂南大学(大阪府寝屋川市)

坂部裕美子「伝統芸能実演家の動的データベースの作成」SAS ユーザー総会、2014年7月25日、東京大学伊藤国際学術研究センター(東京都文京区)

坂部裕美子「在団期間からみた宝塚歌劇団員の年次別構造比較」統計関連学会連合大会、2014年9月15日、東京大学(東

京都文京区)  
(招待講演)坂部裕美子「興行データベースの作成と活用～歌舞伎を例として～」オペラ研究会、2015年10月10日、早稲田大学(東京都新宿区)  
坂部裕美子「落語家の寄席定席への出演状況をD3.jsでビジュアライズする」人文系データベース協議会、2016年2月27日、同志社大学(京都府京都市)  
坂部裕美子「落語協会の有カ一門の勢力分布をD3.jsで『分かりやすく』ビジュアライズする - JSON プロシジャを用いて - 」SAS ユーザー総会、2016年7月22日、神戸国際会議場(兵庫県神戸市) プレゼンテーション賞受賞  
坂部裕美子「昭和期における実演芸術公演の長期統計の作成」統計関連学会連合大会、2016年9月6日、金沢大学(石川県金沢市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坂部 裕美子 (SAKABE, Yumiko)

(公財) 統計情報研究開発センター 研究員

研究者番号: 50435822

以上